

2025 年 3 月 5 日

計画実行・監視専門調査会（第 41 回）に関する意見について

日本労働組合総連合会
副事務局長 井上久美枝

本日の会議に欠席のため、論点について以下の通り意見を申し上げます。

（１）女性デジタル人材の育成について

「女性がデジタルスキルを生かして活躍する具体的な姿とそのための支援のあり方」の論点について

- 資料 1、2 ページ「はじめに」の「コロナ下における女性の就労支援」に、「非正規雇用労働者への厳しい影響は今なお継続」とあるが、それは現在も解消されていないのではないかと懸念する。政府が進める女性デジタル人材育成プランにアクセスできる女性たちはまだ限られており、当時失業した女性や現在、非正規雇用で働く女性は、就労支援にアクセスする術もわからない・できない実態にある。希望する女性がデジタルスキルを身に付け、成長を見込める分野で働き、所得向上を図るための支援を行うことは必要であるが、デジタル人材を増やすことばかりに重きを置くことで、そこに参入できない女性たちへの支援が薄くなるのではないかと懸念する。女性デジタル人材の育成のほかにも、労働者のニーズに沿う所得向上に向けた施策も並行して行うべきである
- 事例報告の中には業務委託を中心とした取り組みも紹介されているが、業務委託で働く場合、正社員に比べて就業の安定性が確保されにくく、労働保険・社会保険の適用といった労働条件面でも不利になりがちである。就労に時間的な制約がある人たちにとっては、好きな時に好きな時間だけ働けることは魅力的なことではあると思うが、結果としてフリーランスを増やすだけにならないよう、処遇の改善など十分注意した施策を進めるべきである。

「さらなる女性デジタル人材の育成・活躍に向けて、今後取り組むべき事項」の論点について

- 資料 1、4 ページに「地域女性活躍推進交付金による取組実績」が掲載されているが、自治体の総数に比して取り組んだ自治体数は非常に少ないのではないかと懸念する。先にも述べたが、就労支援へのアクセスはまだまだ周知されておらず、官民が連携した取り組みで、多くの女性の所得向上・経済的自立に向けた施策を進めることが重要である。

（２）男女の性差に配慮した施策の推進について

「施策を立案するにあたって、配慮すべき男女の性差やニーズの違いの具体例」の論点について

- 「女性版骨太の方針 2024」においては、医療や薬品の提供、女性の体格に適合した安全装備の推進、生成ＡＩによる固定的な性別役割分担意識の助長防止などが、男女の性差による影響に配慮した施策として取り上げられているが、そうした個別の分野に限らず、あらゆる分野において一方の性に偏ることなくデータを取得し、誰にとっても安全で利用しやすい製品・サービスを広めていくべきである。

「性差への配慮が特に有効な施策分野」の論点について

- 女性に配慮した災害対策について。昨今の災害発生状況や、女性や子どもに係る課題が災害のたびに繰り返し指摘されていることを踏まえ、内閣府の防災担当増員においては、女性の担当者確保することが必要である。加えて、災害時に女性や子どもが暴力などの被害に遭うリスクが高まることへの対策として、避難所における安全確保、防災体制および生活環境整備のための財政支援を行うべきである。
また、地方自治体の防災担当女性職員の増員、備蓄・設備投資のための予算確保も必要である。

「性差への配慮にあたっての留意事項」の論点について

- 多様な性のあり方について留意が必要である一方、連合においては、調査を実施する際、「労働組合への女性の参画率を把握する観点から、性別の記入を求めています。その上で性別の記載に関しては、性の多様性があることを認識しつつも、『男女』の２つとしています。なお、選択に迷われた際においては、雇用管理上の性にもとづいてご回答ください。」と記載し、理解を求めている。性差への配慮は必要であるが、男女の課題を把握する観点から、男女間賃金格差の実態や女性管理職の登用等の調査に影響が出ないような取り組みをお願いしたい。

以 上